



特定非営利活動法人アクション
平成31(令和1)年度 事業報告書

〒180-0023 東京都武蔵野市境南町3-10-1-1F
特定非営利活動法人アクション

代表挨拶

設立25周年の節目の年に、今後の25年に繋がる活動を実施する事が出来ました。これも日頃から応援して下さる皆様のおかげです。ありがとうございます。また、25周年に際して、多くの方から激励のメッセージを頂きました。重ねてお礼申し上げます。

2014年より実施してきた「児童福祉施設のハウスペアレント研修」において社会福祉開発省によるハウスペアレント研修規定の制定という大きな成果を出す事が出来ました。日本に例えると、厚生労働省が児童福祉施設で働く職員向けの指導要領及び研修要領を大臣が承認の上、制定した事に相当します。1994年より孤児院ジャイラホームの施設建設や運営サポート、盲ろう学校ニョスバグアサセンターの施設整備など、主に児童福祉施設の施設整備を活動のメインとしてきました。活動を続ける中で多くの子ども達と出会い、施設運営の様々な課題を知りました。その中で、子ども達を側で支える職員であるハウスペアレントに対して研修をする余裕がなく、子ども達との関係を上手く築けない事例をいくつも見てきました。また国自体がハウスペアレントに対しての指導要領や研修制度を定めていない事を知りました。

そこで研修教材の作成と中部ルソン地域での研修実施を目標にJICA（国際協力機構）の草の根パートナー事業として応募し2014～2016年まで中部ルソンの60施設に対して研修の実施をしました。そして、その成果を元に2017～2019年までマニラ首都圏の17施設に対して研修を実施し、社会福祉開発省と協働でハウスペアレント研修規定の提言を大臣に対して行い、大臣の署名を持って国の研修として制度化されました。

今回の研修規定の制定により、フィリピン全土にある700以上の児童福祉施設（児童養護施設や乳児院、青少年更生施設、性的虐待被害者シェルターなど）のハウスペアレントは研修を受ける事が義務となります。25年前に1つの孤児院で始まった活動が、フィリピンの福祉政策を動かし、フィリピン全土の施設をサポートする事が出来るようになりました。間接的に40,000人以上の子ども達に関わる事となります。社会福祉開発省をはじめとしてJICA、日本の児童養護施設である至誠学園、フィリピン大学や事業実施に協力してくれた中部ルソン及びマニラ首都圏の80施設、そして日本及びフィリピン事務局のスタッフの全てが子ども達によりよい環境を作りたいという共通の目的を持ち、協力してきた結果だと思えます。組織の規模ではなく、想いが事業を実現する。NGOとしてこれほど嬉しいことはありません。

2020年からは3年間の予定で社会福祉開発省と共に全国で研修実施、また新事業として法を犯した青少年の更生施設に対するライフスキル研修導入も実施していきます。またフィリピンでの経験を日本に還元するために日本の児童養護施設職員に対するライフスキル向上アクティビティのマネジメント研修を実施していきます。

数年前より進めてきた、フィリピン国内における活動資金獲得も今

後に繋がる大きな出来事がありました。日本のNGOは日本で活動資金を集め、活動を途上国で実施するケースがほとんどですが、フィリピンの社会問題はフィリピンの中間層や富裕層に支援して頂く事が重要であると考えてきました。そのためには、フィリピン国内や福祉業界での団体の信頼度及び認知度を上げる必要があります。フィリピン人スタッフが中心となり児童福祉業界でネットワークを広げ、現在はオロンガボ市議会外部委員、サンパレス州NGOネットワーク代表（70団体）、中部ルソンNGOネットワーク副代表（350団体）を務めています。またフィリピンで有数の財団であるコンスエロ財団やフィリピンナショナルバック財団との提携も進めてきました。そして、これまでの活動の成果として今年度、中部ルソン・ベスト地域型NGO賞を社会福祉開発省から頂きました。

これらの集大成として2019年12月に2年間かけて準備をしてきた「寄附金控除団体認定」を取得する事が出来ました。これはフィリピンにある個人・法人がアクションのフィリピン事務局に寄付をする上限無しで控除を受けられるもので、日本では公益財団法人認定にあたり、日本の団体としては初めての認定です。認定を目指すにあたって、全ての事業の見直しや組織体制の整備、会計体制の整備などフィリピン事務局の大幅な組織改革を実施しました。この認定に伴い、国際機関やJICA以外の援助機関にも申請が可能になります。この認定を無駄にする事がないよう、代表としてより一層のネットワーク構築に力を入れていきたいと思えます。

2015年に開設したオロンガボ事務所及びチカラプロジェクトスタジオはスタッフの増員及び受益者である子ども達の増加により手狭となったため移転しました。新しい事務所及びスタジオは旧事務所より徒歩10分の商業の中心エリアにあります。広さも倍以上となり多くの子ども達で賑わっています。またマニラのケソン市にあったマニラ事務所もほぼ同時期にマラボン市へと移転をしました。両事務所とも子ども達がワクワクできる素敵なお場所になっています。

今、この原稿を新型コロナ対策によるロックダウン中のマニラで書いています。貧困層の方々の生活は日を追うごとに困窮しており、先日は配給が行き渡らない市民によるデモがあり多くの逮捕者が出ました。2020年の経済成長率は0%が予測されており、日本及び世界中のありとあらゆる業界が大きな影響を受けており、NGOも例外ではありません。経済の悪化に伴って、生活苦から新たな子ども達への虐待や育児放棄、児童労働や人身売買が増加される事も予想されており、新型コロナウィルス収束後に当団体がフィリピンで果たす役割はより重要になってくると考えています。組織としての体力をつけ、様々な機関と連携しより多くの子ども達をサポート出来るようスタッフ一同頑張っていきたいと思えます。今後とも応援の程よろしくお願い致します。

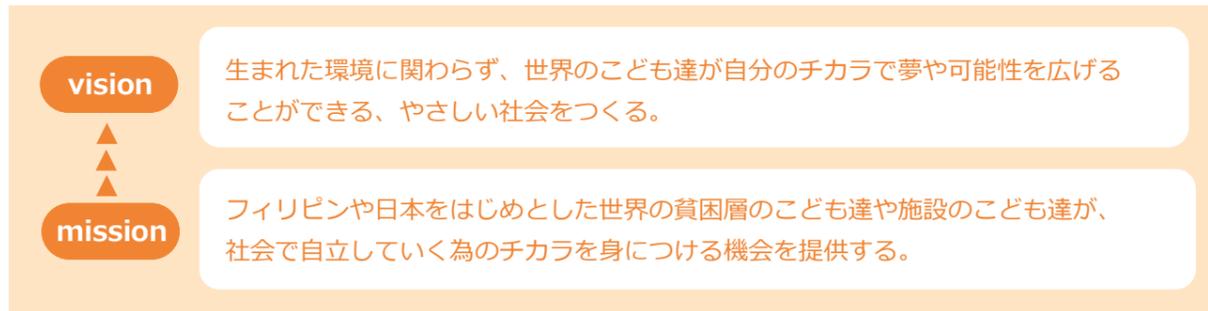
NPO法人アクション

横田 宗

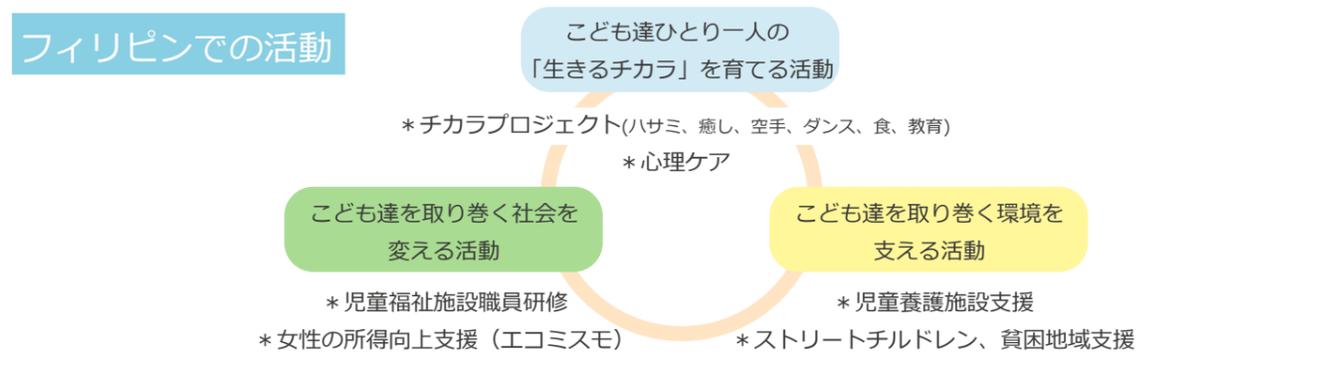
2019年活動概要

1994年、ピナトウボ火山の噴火で被災した孤児院の修繕作業から始まったNPO法人アクションの活動は、児童養護施設やストリートチルドレンのための支援へと広がりました。アクションは現在、子ども達への支援と子ども達を取り巻く社会に対する活動を行っています。生まれた環境に関わらず、世界の子ども達が自分のチカラで夢や可能性を広げることができるやさしい社会をつくるため、2019年は以下の活動を行いました。

アクションの活動理念



フィリピンでの活動



チカラプロジェクト	施設や貧困地域の子ども達に対して、子ども達が自分自身で自立に向かうチカラを身に付けることを目標に、職業訓練としてハサミのチカラ（美容師養成）と癒しのチカラ（セラピスト養成）、教育・ケア活動としてダンスのチカラ、空手のチカラ、食のチカラ、教育のチカラを実施。
心理ケア	施設の子ども達が心に抱える課題と向き合うために、心理ケアプログラムを実施。
児童福祉施設職員研修	施設の子ども達がよりよい環境で生活できるように、中部ルソン地域とマニラ首都圏の計12～17施設の職員に対して研修を実施。* JICA草の根パートナー事業
女性の所得向上支援	マニラとオロンガボ市にて、経済的貧困により家庭での養育が不十分な子ども達を支援するために、貧困地域の母親によるフェアトレード製品の製作を実施。
児童養護施設支援	主に児童養護施設ジャイラホームにて、朝食支援や学用品支援、施設の修繕を実施。
ストリートチルドレン	現地NGOタタッグと提携し、ストリートチルドレン向けの青空教室を実施。

日本での活動

海外ボランティア	国際協力への関心を高めると共にフィリピンの児童養護施設や貧困地域にボランティアを派遣。
コドリーム（学習支援）	地域や児童養護施設の子ども達に対して学習支援を実施。
国際理解教育	武蔵野市教育委員会主催「土曜学校世界を知る会」や学校での授業で国際理解教育を実施。
募金活動	ハサミのチカラへの協力店舗にて募金箱を設置。



こども達一人ひとりの「生きるチカラ」を育てる活動

チカラプロジェクト

こども達への職業訓練と教育・ケアで自立に必要な「生きるチカラ」を育てる！

貧困地域で暮らすこどもやストリートチルドレン、児童養護施設で暮らすこどもの「生きるチカラ」を育てるチカラプロジェクトでは、職業訓練や教育・ケア活動を実施しています。こども達が将来、社会で自立できるように、チカラプロジェクトを通して自分に自信を持てる体験を積み重ねる機会を提供しています。チカラプロジェクトでは、以下のプログラムを提供しています。なお、癒しのチカラには貧困地域の大人が参加しています。

提供しているプログラム

<職業訓練>

ハサミのチカラ 美容師になるための知識や技術を身に付ける

癒しのチカラ セラピストになるための知識や技術を身に付ける

<教育・ケア>

空手のチカラ 物事を成し遂げる経験や、礼儀を身に付ける

ダンスのチカラ 自分を表現する方法や協調性を身に付ける

食のチカラ 給食提供や食育で健やかな体を育む



ハサミのチカラ

開催場所：オロンガボ市・マニラ / 実施回数：44回 受益者数：6名

施設のこども達が退所後に社会で生きていくためのサポートとして、ヘアカットの技術を学ぶための職業訓練を行っています。本年度は40回の通常クラス、4回の特別クラス、1回のヘアキャンプを実施しました。2019年5月には、ハサミのチカラ第2期生が卒業しました。卒業生の中にはまだ大学で勉強を続けている子もいますが、美容院にアシスタントして就職し、シャンプーやドライヤー等の業務を日々こなしている子もいます。それぞれが自分の夢に向かって頑張っている様子です。ハサミのチカラ参加者が、本プログラムをきっかけとして、自分の未来を大きく切り開くことができたことを非常に嬉しく思います。



癒しのチカラ

開催場所：オロンガボ市・マニラ / 実施回数：278回

美容系専門求人サイトを運営するリジヨブ様のご支援のもと、セラピスト養成講座を地域の方々に提供しています。約3ヶ月の講座を通して参加者はマッサージの技術と知識を学んでいます。講座修了後には、フィリピンのTESDA(専門的教育と技術の向上機関)が実施する資格試験にも挑戦し、多くの参加者がセラピストの資格を取得しています。また、講座卒業後は修得した技術を使用して、スパやホームサービス等のマッサージの仕事に携わっています。マッサージの仕事で収入が増え、こども達の養育にお金を掛けることができるようになった等の報告も聞いており、貧困改善等の社会問題解決を目指す重要なプログラムとなっています。



空手のチカラ

開催場所：オロンガボ市 / 実施回数：473回 受益者数：130名

こども達の健全な育成を目指し、施設のこども達や貧困地域のこども達に対して空手教室を提供しています。2月と9月には昇級試験が実施され、それぞれ36名と46名の参加者が見事昇級を果たしました。また、日々の練習の成果を発揮する場として、こども達は空手の大会にも参加し、多くの生徒が国内大会で入賞を果たすなどの活躍を見せています。12月には、フィリピンで開催された空手ユロ・アジア国際トーナメント大会にも参加し、一人は優勝、一人は3位に入賞することができました。国際大会でも活躍できる選手が出たことは本プログラムの大きな成果となっています。



ダンスのチカラ

開催場所：オロンガボ市 / 実施回数：296回 受益者数：130名

児童養護施設と貧困地域のこども達に週1回、プロのインストラクターによるダンスレッスンを提供しています。また、本年度からは選抜クラスを月2回開催しています。選抜クラスは通常のレッスンよりも振り付けの難易度が高く、選ばれたこども達しか参加できません。毎年行われているショッピングモールでの発表会を今年は計4回実施することができ、日々の練習の成果を発揮することができました。普段大人しいこどもも音楽がかかるとダンスに夢中になり、明るい表情を浮かべています。こども達は選抜クラスに加入することを目標に、真剣に取り組んでいます。



食のチカラ

開催場所：オロンガボ市 / 受益者91名

世界の飢餓問題の解消に取り組むTable For Two様と2014年から協働で実施している給食支援及び学校菜園作りも6年目を迎えました。本年度もカステリアアホス町ライバイ小学校にて子どもたち91名に給食支援を実施しました。学校菜園における工夫としてビニールハウスの設置、オーガニックの防虫剤や虫取り機の導入、堆肥作り等積極的な取組みも行いました。また農業・栄養講座を通して、地域のお母さんたちの食に関する意識改革、家庭菜園を進めるにあたっての知識、技術の取得に努めました。給食作りを担っているお母さんたちのための料理大会は、子どもたちが苦手意識を克服しながら栄養ある食事の提供できるアイデア料理を共有する機会となりました。



[次年度に向けて]

全てのチカラプロジェクトで、今年度と同様の内容を実施予定です。こども達がより効果的に多くのライフスキルを身につけることができる機会を提供していきます。

事業内容：	こども達への職業訓練及び情操教育で、生きるチカラを育む「チカラプロジェクト」
受益者層：	児童養護施設のこども、貧困地域のこども、ストリートチルドレン、貧困地域の大人
担当者：	山本浩平、堀有彩、松岡春香、Evangeline Grace Balais、Michelle Tayao、Riozan Yen Locsin



第2フェーズJICA草の根技術協力事業実施

(実施期間：2016年10月～2019年8月)

2016年10月より実施してきたJICA草の根事業第2フェーズが2019年8月をもって無事に終了しました。本事業では児童養護施設で暮らす子ども達を取り巻く環境の改善を目指し、マニラ首都圏と中部ルソン地域で児童養護施設の養育体制強化及びフィリピンの社会福祉開発省に対する「ハウスペアレント研修規定」の提案を行いました。



成果①：ハウスペアレント研修の実施と効果

パートナーとなったマニラ首都圏にある17の児童養護施設職員（ハウスペアレント）に対して、子どもの権利や関連法律に関する知識、子どものケア方法など日々の業務に役立つ技術を学ぶためのハウスペアレント研修を行いました。2016年から開始した本研修には、ハウスペアレント107名が参加し、そのうち106名が全過程を修了することができました。研修の結果、ハウスペアレントの養育方法に関する知識が増えただけでなく、施設に入所している子ども達からも「ハウスペアレントが以前のように威圧的な態度で叱らなくなった」、「他の子ども達と平等に扱ってくれるようになった」等の声が上がりました。子ども達とハウスペアレントとの関係が以前よりも良好になったという報告が多く上がったことは本事業の大きな成果です。

成果②：継続性のある仕組みを構築

本事業では最初に、パートナーとなった17の児童養護施設のソーシャルワーカーに対してハウスペアレント研修の指導員育成（トレーナー研修）を行いました。その後、トレーナー研修を受けたソーシャルワーカーが各施設のハウスペアレントに対してハウスペアレント研修を行うという方法を採用しました。これにより、研修を受けたソーシャルワーカーが各施設で研修を受けていないハウスペアレントに対して独自で研修を実施できる体制を構築しました。本事業終了後も、研修を受けていない各施設のハウスペアレントや新しく入ったスタッフに対して、本事業で開発した研修プログラムと教材を使用して独自に研修を実施しているとの報告があり、今後も各施設等でハウスペアレント研修が行われることで児童養護施設の養育体制が継続して強化される仕組みを作ることができました。

成果③：ハウスペアレント研修が国の制度に

マニラ首都圏と中部ルソン地域で実施した研修をフィリピン全土で展開するために、「ハウスペアレント研修規定」を社会福祉開発省（DSWD）長官に提出し、政策提言を行いました。そして、2019年8月に「ハウスペアレント研修規定」がDSWD長官によって署名され、国の制度として認定されました。これにより、今後はDSWD内で予算が確保されて研修が実施されていくことが決まりました。

事業内容： 児童養護施設職員のための能力強化研修の実施とフィリピン全土での研修実施を目指した政策提言
受益者層： マニラ首都圏にある児童養護施設のソーシャルワーカー及びハウスペアレント
担当者： 横田宗、山本浩平、フィリピン事務局スタッフ7名

児童養護施設の子どもの成長と自立を促進

(実施期間：2016年10月～2019年8月)

2012年～2015年にJICA草の根事業として、中部ルソン地域で児童養護施設職員であるハウスペアレントの能力強化研修（ハウスペアレント研修）を実施しました。その成果と実績をもとに、2016年からは再びJICA草の根事業として、同地域にて子ども達の成長と自立を促進するための事業を行ってきました。本事業では、児童養護施設で働くソーシャルワーカーとハウスペアレントに対してライフスキル向上アクティビティのマネジメント研修の実施と、ライフスキル向上アクティビティマネジメント研修を受けたスタッフによる子ども達に対するライフスキル向上アクティビティを実施しました。



成果①：マニュアルの製本化

本年度は、2018年に児童養護施設で働くソーシャルワーカーとハウスペアレントに対して実施したアクティビティマネジメント研修で使用したマニュアルを製本化し、本事業のパートナー施設に配布しました。2018年に行ったアクティビティマネジメント研修による人材の育成と本年度実施した実施マニュアルの作成と製本化の達成により、本事業が終了した後も、各施設で継続して子ども達にアクティビティを実施できる体制を構築しました。

成果②：ライフスキル向上アクティビティの効果

本事業による成果を測るために、事業実施前後で子ども達の様子や行動に関する調査を実施し、本事業が子ども達に与える効果を測定しました。調査の結果、本事業で実施したライフスキル向上アクティビティを受講したことにより、「他の子どもとのコミュニケーション能力が上がった」、「他人の感情に関して理解を示すことができるようになった」、「自己抑制と自己管理に関する成長が見られた」、「責任感が強くなった」等の子ども達の様子と行動にポジティブな変化が多く見られました。これらの変化は、本事業の有効性と成果を表すものとなりました。

事業内容： 児童養護施設のための能力強化研修と子ども達のためのライフスキル向上アクティビティの実施
受益者層： 中部ルソン地域にある児童養護施設のソーシャルワーカー・ハウスペアレント及び子ども達
担当者： 横田宗、山本浩平、畝尾知佳、フィリピン事務局スタッフ7名

JICA草の根事業第3フェーズ実施決定

第3フェーズの提案がJICAにより採択されたため、2020年からは、マニラ首都圏・中部ルソン地域の青少年更生施設及び補導された子ども達へのライフスキル向上アクティビティの展開とフィリピン全国9地域でのハウスペアレント向け能力強化研修の展開を行います。本事業は2012年から実施してきたJICA草の根事業の集大成となる事業です。

【2020年実施内容（予定）】

マニラ首都圏・中部ルソン地域：青少年更生施設及び補導された子ども達へのライフスキル向上アクティビティの展開
フィリピン全国9地域：ハウスペアレント向け能力強化研修の全国展開



児童養護施設支援

ストリートチルドレン／貧困地域支援

心・体・教育の面で健全な育成をサポート

当団体が支援しているジャイラホームでは4歳から16歳の14名のこども達が生活しています。創設者であるフィリピン人牧師ジョエル氏夫妻と4名のハウスペアレント、1名の社会福祉士が貧困、虐待、育児放棄、孤児など様々な背景をもつこども達が健全な成長ができるように保護し、養育しています。フィリピンでは、民間の施設は政府・行政からの補助金を受けることができません、運営資金のやり繰りに苦労をしている施設もたくさんあります。民間の施設であるジャイラホームも、資金不足によりこども達が十分なケアを受けられないという課題を抱えています。当団体は、ジャイラホームで暮らすこども達が健全な成長を遂げることができるよう、様々な支援を行っています。

心の育成 (心理ケア)

複雑な背景を持って入所してくるこども達は、感情のコントロールが上手くできない、自信が持てない、継続して努力する力が弱い、コミュニケーション能力が不十分である等の様々な課題を抱えています。この問題を改善し、施設退所後にスムーズに社会復帰することを目指し、こども達に対する心理ケアプログラムやソーシャルスキル向上アクティビティを実施しています。

体の育成 (食事支援)

栄養のある食事はこども達の成長に必要不可欠です。空腹では学校の勉強に集中して取り組むことや思いきり遊ぶことなど、日々の生活を意欲的に行うことができません。こども達が必要な栄養を摂取できるように、グルメアプリを運営する株式会社テーブルクロス様のご協力により、こども達に対して栄養のバランスが取れた食事を提供することができました。

学力の育成 (教育支援)



教育を受けることはこども達の権利ですが、施設に入所してくるこども達の中には十分な教育を受けられずに入所してきたこども達もいます。教育はこども達が将来社会で生活していくうえで必要不可欠なものです。本年度は学生団体YELL様のご協力により、小学校と中学校に通うこども達13名が学校に通うための授業料と教科書代を支援することができました。

施設修繕



2017年6月に大雨と台風により倒壊してしまった食堂の再建のために行ったクラウドファンディングによるたくさんの支援者からの応援によって、2019年3月に遂に食堂が完成しました。完成した食堂は食事やイベントで使用する他、海外ボランティアプログラム実施時にも、日本人ボランティアと一緒に食事や交流をする場所として大きな役割を果たしています。

[次年度に向けて]

2020年は引き続き、ジャイラホームのこども達の健全な育成を目指し、心理ケアやソーシャルスキル向上アクティビティ、教育支援、食事支援を実施していきます。こども達がより良い環境のもとで生活・成長できるようサポートしていきます。

事業内容：児童養護施設支援（心理ケア、教育支援、食事支援、施設修繕）
受益者層：児童養護施設に入所してるこども14名
担当者：山本浩平、堀有彩、松岡春香、Evangeline Grace Balais、Michelle Tayao、Riozan Yen Locsin

奨学金、給食支援、青空教室でこども達の健全な育成をサポート

国民の4人に1人が貧困層であるフィリピンでは、貧困によって様々な社会問題が起こっています。当団体もフィリピンの貧困家庭やそこで暮らすこども達が抱える問題解決に向けての様々なアプローチを行っています。



青空教室の実施、給食支援

当団体は貧困地域のこども達に向けた青空教室を実施しています。参加者の中には、家庭の経済状況により学校に通うことができていないこどもやストリートチルドレンとして放課後や週末に路上で働いているこどももいます。青空教室は、「こどもからこどもへ」というスタイルを採用しており、リーダーとしての訓練を受けた中高生達が参加者であるこども達に対して青空教室の授業を実施しています。授業では、基礎学問、ライフスキル、こどもの権利に関すること等がテーマとして取り上げられています。また、春と夏の海外ボランティア事業開催時には、日本人ボランティアも一緒に青空教室に参加しています。このような機会は、日本人ボランティアとフィリピンのこども達が交流できる非常に貴重な機会となっています。

青空教室の参加者には1日3食の栄養ある食事を摂ることができていないこどももいます。そのため、青空教室実施時には給食支援も行っており、参加したこども達が元気になるような食事を提供しています。

10名のこども達への奨学支援

今年度もGrowing People's Will様と3名の個人スポンサーの皆様から支援をいただき、奨学生10名に対する奨学金支援を行いました。奨学生10名のうち、Growing People's Will様のご支援を受けていた奨学生3名は、見事高校を卒業することができました。現在、卒業生のうち1名が就職、1名が社会福祉士を目指して大学に進学、1名が大学進学準備を進めているという状況です。奨学金支援がなければ、卒業することも、学校に通うことさえできず、自分の夢に向かってチャレンジすることさえできなかったかもしれないこども達が、このような形で人生の選択肢と可能性を広げることができたことを非常に嬉しく思います。

[次年度に向けて]

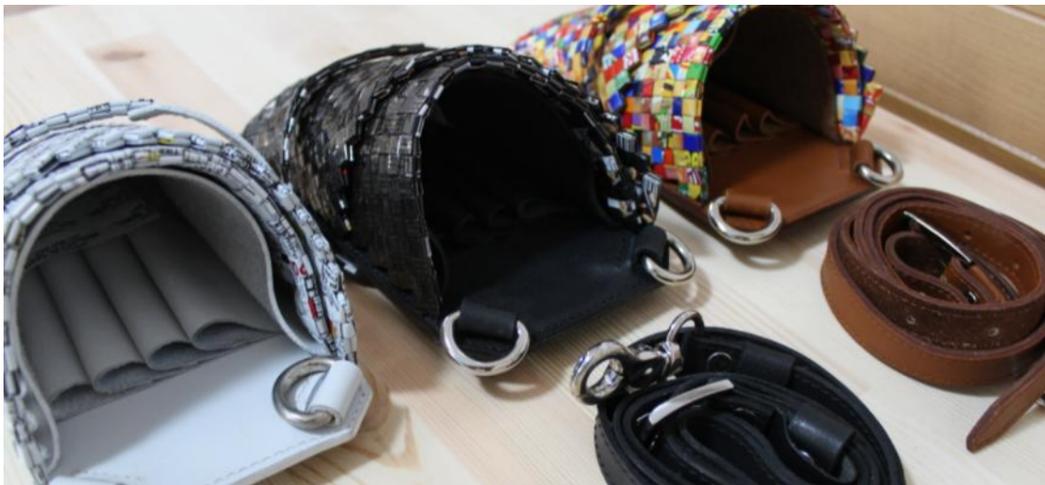
来年度も貧困家庭のこども達のサポートのための青空教室の実施や奨学金支援を実施します。

事業内容：奨学支援、青空教室等の活動を通じてのこども達のサポート
受益者層：オロンガポ市内のストリートチルドレン及び貧困地域のこども達
担当者：山本浩平、松岡春香、Evangeline Grace Balais、Michelle Tayao



お菓子の袋を再利用した商品で フィリピンのお母さん達の所得を向上

2009年に開始した本事業は、子ども達が健全に成長できる家庭環境を整えることと街の美化を目的に、女性達に職業を提供してきました。お菓子の袋を再利用した製品「エコミスモ」を、フィリピンの首都マニラにある貧困地域マラボン市で製作し日本で販売することで、製作者であり母親でもある女性達に適切な賃金の支払いを行ってきましたが、本事業は2019年度で終了することになりました。



2019年の製作・販売状況

2017年以降、エコミスモの製作を担当する女性達の全員が副業を始めたことで、エコミスモの製作以外からの収入を得られるようになりました。そして、エコミスモの注文数が減少したことにより、多くの製作者が副業に比重を置いて働くようになりました。本事業の目的の一つが、貧困地域の子ども達が健全に成長できる家庭環境を整えるために女性達の所得を向

上させることでしたが、女性達の努力により現在はエコミスモに関わる女性達のほとんどの家計が安定しています。これらの事情を踏まえ、2009年から10年間実施してきた本事業は2019年度で終了することとなりました。エコミスモは在庫が残っているため、今後も日本での販売を継続し、在庫がなくなった時点で販売も終了する予定です。

[次年度に向けて]

本事業は2019年を持って製作を修了し、2020年以降は在庫販売を行っていきます。在庫が無くなり次第、事業は完全終了を予定しています。

事業内容： フェアトレード商品の製作及び販売
受益者層： マニラ首都圏マラボン市に暮らす母親世代の女性
担当者： 横田宗、長田幸子、Yabut, Grace G.



ハンドメイド商品で フィリピンのお母さん達の所得を向上

本事業では、路上で働く子ども達や児童養護施設で生活する子ども達を減らすことを目的に貧困地域のお母さん達への所得向上支援を行っています。現在はオロンガポ市内の2名の女性が携わり、ピアスやブレスレット等のアクセサリやデコレーションしたビーチサンダルを製作・販売しています。手作りなので商品をよく見ると違いがありますが、一点ものの味わいのある商品となっています。お母さん達は素材にも工夫を凝らし、どのような商品がお客様に喜ばれるかを常に考え、一つ一つの商品に心を込めて製作しています。



不用品を再利用しアクセサリに

本年度は素材にこだわり、本来ならば捨ててしまうココナッツの殻やジーンズ、CDをも再利用して、沢山の種類のオリジナル商品を開発しました。デザインの提案から製作まで全てお母さん達の手によって商品が出来上がっています。中でもお母さん達が特に力を入れていたのは、ココナッツの殻から製作したピアスでした。捨てられたココナッツから製作するため、まずはのこぎりで小さい形に整えるところから始まります。そこからブラシで綺麗に磨き、穴を開けてピアスの金具を取り付けるという作業です。ココナッツの殻は非常に硬く力が必要なため、お母さん達も最初は苦戦していましたが、魅力的な商品に仕上がるよう心を込めて製作に取り組んでいました。新商品も多くの方に手に取って頂き、売上向上に繋げることが出来ました。

バザーに出店

本年度は計4回、バザーに出店することができました。7月3日のマニラでのNGOバザーではお客様の9割が日本人女性でしたが、たくさんの方に商品を手にとってもらうことができました。全て手作りであることを伝えると驚かれる方が多かったです。また、今年も製作者のお母さん達による実演販売を行いました。

オンラインでの販売開始

更なる販路開拓のために、本年度から「LAZADA」というオンラインでのネット販売を導入しました。世界的に有名なオンラインサイトでの販売により、買い手のターゲットを全世界に広げることが出来ました。また、本事業の取り組みを多くの方に知ってもらう機会にも繋がりました。

[次年度に向けて]

本年度は、ショッピングモールでのバザー、日本からのボランティア参加者への販売に加え、オンラインサイト「LAZADA」でのネット販売を導入したことにより、全体の売上を伸ばすことが出来ました。次年度も安定した製作数と収入額を目標として活動していきます。また、次年度はアクセサリやデコレーションしたビーチサンダルに留まらないオリジナル商品の種類を豊富にし、買い手の目につく商品の開発に力を入れていきます。

事業内容： フェアトレード商品の製作及び販売
受益者層： オロンガポ市に暮らす母親世代の女性
担当者： 堀有彩



海外ボランティア体験事業

100名の参加者をフィリピンへ派遣

夏のプログラムでは昨年度同様、1つのプログラムで孤児院滞在とホームステイの両方を体験することが出来る混合プログラムを開催しました。また、前半部分のみ参加の前半日程と全日程の2部制のプログラムも実施し、総勢100名の参加者をフィリピンへ派遣することができました。(前年度比+21名) 8月と9月に開催された混合プログラムには、それぞれ23名の参加者が集まり、孤児院ジャイラホームでも地域でも非常に活気の溢れた賑やかなプログラム開催となり、現地の子ども達もとても嬉しそうなお様子を見せていました。さらに、株式会社エイチ・アイ・エス様とのスタディツアーも始まり、高校生を中心に17名の参加者が活動地を訪問しました。



2019年開催プログラム一覧

- 孤児院ボランティア 2月プログラム：計8名 前半：2月15日～2月22日 5名 全日程：2月15日～2月28日 3名
●短期インターンプログラム 3月5日～3月13日 3名
●ストリートチルドレン+孤児院ボランティア 8月プログラム：計23名 前半：8月17日～8月22日 7名 全日程：8月17日～8月28日 16名
●ダンス交流ボランティア 3月18日～3月24日 3名 8月5日～8月11日 5名
●ストリートチルドレンボランティア 2月11日～2月20日 4名 3月4日～3月13日 10名
●HISスタディツアー 8月1日～8月5日 17名 9月14日～9月18日 2名
9月プログラム：計23名 前半：9月5日～9月11日 9名 全日程：9月5日～9月16日 14名

企業/学生団体/有志 のコーディネートツアー受入れ

今年度は例年よりも多くの企業・団体の皆さまに現地をご訪問いただき、年間で7本のコーディネートツアーを実施しました。また昨年度より始まった、シチズン時計株式会社の「シチズン社会貢献活動派遣制度」の一環として行われる時計工作教室「First Watch Project」が今年度も実施され、バライバイ小学校で時計づくり教室が開催されました。

Table with 2 columns: [企業], [学生団体], [有志]. Rows list various organizations and their participation dates and numbers.

[次年度に向けて]

今年度は開催プログラムの数や種類は前年度とさほど変わらない状況の中で、参加人数を増やすことが出来ました。また企業や学生団体の受入れやツアー実施依頼も年々増加しています。来年度もより充実した活動内容でのプログラム開催を目指すと共に、企業や団体のCSR・現地視察や研修等、コーディネートツアーも積極的に受入れていきたいと思ひます。

Table with 3 rows: 事業内容: 国際ボランティア体験事業, 受益者層: フィリピンの児童養護施設や貧困地域の子ども達、ストリートチルドレン/日本の青少年, 担当者: 山本浩平、畝尾知佳、堀有彩、松岡春香

算数教室と居場所スペースで子ども達の「生きるチカラ」を育む

2016年11月からスタートした日本事務局が運営する「コドリーム」では、開始当初は地域の子ども達の「生きるチカラ」を育むために、算数教室の運営と居場所スペースの開放、そして週末のワークショップの3本柱で活動していましたが、2018年からは算数教室に絞って活動を行いました。2019年も、日本事務局の他に東京都立川市にある児童養護施設「至誠大地の家」にて算数教室を実施し、自学自習で取り組める「でき太くんの算数クラブ」様の学習材を使用して事業を行っています。



日本事務局での活動

今年度、日本事務局で実施している算数教室では、5名の子どもが学習を行いました。コドリームでは、算数の学習を通して子ども達の「生きるチカラ」を育てていますが、学力をつけることだけを目標にしていません。1日2枚のプリントをごまかさず、自分で準備、学習、丸付け、やり直し、片付けをきっちり取り組めるようになることで、子ども自身が「できた!」という実感を持ち自信を付けることを目標としています。そのため、スタッフが算数を教える時間はほぼなく、子ども達が日々抱く「面倒くさい」「どうせぼく・わたしはバカでダメなんだ」というような、集中して前向きに学習することができなくなってしまう要因となる様々な感情に寄り添い、向き合い、まだ自分に自信がない子ども達に対してスタッフが本人を本人よりも信じて応援する時間を多く持っています。

「至誠大地の家」での活動

2017年からスタートした児童養護施設「至誠大地の家」での算数教室を2019年も実施し、14名の子ども達が学習を行いました。子ども達は本園にある2つのホームと、地域にある3つのグループホームで生活を行っています。以前は本園の空き部屋を使用して算数教室を開催していましたが、グループホームの子ども達が算数教室に通う負担を減らすことと、算数教室が無い日にも各ホームで自学自習に取り組めるよう、ホーム職員の方に協力してもらうための関係構築のため、本年度は担当スタッフが子ども達のホームを周り、リビングや居室を使って個別に算数の学習を見ました。その成果により、各ホーム職員の方と連携が取れるようになり、学習ペースが安定した子どももいました。ですが、生活スペースでの学習は他の子ども達やテレビなどで集中できないこともあり、どう学習に集中するかが2020年の課題です。

[次年度に向けて]

今年度は24名の子どもがコドリームで算数を学習しました。2020年度は担当スタッフが変わる予定となっているため、まずは新スタッフが算数教室をしっかり運営していくことを目指し、運営が落ち着いた段階で子ども達にとってより良い教室作りを目指していきたいと思ひます。

Table with 3 rows: 事業内容: 日本の子ども達の「生きるチカラ」を育むためのプロジェクト, 受益者層: 武蔵野市及び近隣地域の小学生, 担当者: 長田幸子、畝尾知佳

コドリーム (算数教室)



小学生や中学生の国際交流や、国際理解講座「世界を知る会」を実施

武蔵野市内の小学校4年生～6年生を対象とした国際理解講座、土曜学校「世界を知る会」が今年度も開催されました。アクションでは今年も講座全体のコーディネートとフィリピンの小学生との交流(文通と最終回でのスカイプ交流)を担当し、今年度は25名のこども達が講座に参加しました。世界を知る会は、これまで1学期(6月～7月)の午前中に開催してきましたが、夏は大雨や台風によりスカイプ交流への影響が出やすいため、今年度からは開催時期を2学期(10月～12月)に変更することとなりました。また学校公開や行事など、こども達が土曜日午前中に登校する日数が増えている現状を受け、今年度は講座を午後からの開始に変更し、新たな時期・時間帯で講座を実施しました。受講生のこども達は、世界への興味・関心も高く、毎回の講座に積極的に参加する姿勢が印象的でした。またおもしろい心を持った子が多く、最終回のスカイプ交流では緊張により自己紹介が止まってしまったフィリピンのこどもに向けて、「聞こえたよ!」と声をかける姿も。心と心で繋がる“国際交流”“国際理解”をこども達自身が体現してくれた講座となりました。その他、筑波大学付属小学校や桐蔭学園中等教育学校で文通交流プログラムのコーディネートを担当し、日本の小学生や中学生と、フィリピンの小学生や施設のこども達との手紙を通じた国際交流が行われました。



中学校・高校・大学への講師派遣、課外授業や職業体験の受け入れ

今年度も中学校、高校、大学での授業や講義への講師派遣を行なったほか、中学生や高校生の課外授業や職業体験の受け入れを行いました。講師派遣の際いくつかの学校ではスカイプを繋ぎ、フィリピン事務局のスタッフや代表からもスカイプ越しに話をしてもらいました。ネット環境が整うと共に、授業内で出来ることも多様化しています。

《2019年度の講師派遣》

- ・都立小石川中等教育学校 ・東京都立杉並総合高等学校 ・長野県上田高等学校
- ・青山学院女子短期大学 ・亜細亜大学 ・立教大学 ・立教大学ボランティアセンター(ボランティア講座)

《2019年度の課外授業、職業体験の受入》

- ・武蔵野私立第二中学校 ・アレセア湘南高等学校

[次年度に向けて]

「世界を知る会」は次年度も秋学期、午後の時間帯で開講予定です。次年度は講座の運営メンバーに入れ替わりがあるため大きな変更は入れず、今年度の講座をベースに内容をブラッシュアップさせていく予定です。

事業内容：土曜学校「世界を知る会」の実施・運営、学校での国際交流コーディネート、講師派遣や課外授業受入れ
受益者層：武蔵野市の小学4～6年生、日本国内の学生
担当者：畷尾 知佳、長田 幸子、松岡 春香、清水 春佳

受賞歴 (2019年)

中部ルソン・ベスト地域型NGO賞 受賞

団体概要

団体名：特定非営利活動法人アクション (英語名：ACTION inc.)

代表：横田 宗 (よこた はじめ)

設立：1994年 / 法人登記：2002年

webサイト

日本語版：<http://www.actionman.jp/>

英語版：<http://www.action.org.ph/>

■日本事務局 (日本人職員2名)

〒180-0023 東京都武蔵野市境南町3-10-1 パールハイツタカハシ1F

電話：0422-26-6123

メール：info@actionman.jp

■オロンガポ事務局 (日本人職員1名、フィリピン人職員15名)

ACTION Inc./ Chikara Project Studio

Unit No.9-A 4th Floor, RM Cneter Point Mall, Rizal Avenue, Cor Magsaysay Drive, East Tapinac, Olongapo City, Philippines 2200

■マニラ事務局 (フィリピン人職員4名)

MANILA OFFICE/ Chikara Project Studio,

1019 A101 EDSA Ave, Project 7, Vetelans Vill, Quezon City, Metro Manila, Philippines